トマト

産地の特徴

高冷地の自然条件を活かした雨除け施設栽培により、飛騨トマト 124 ﾍｸﾀｰﾙが栽培され７月から１１月まで出荷が行われている。栽培体系の統一と共同選果場の設置により品質の向上と均一化を図り、京阪神市場を中心に中京市場、京浜市場へ出荷され、飛騨地域全域での共同販売・共同計算を行っている。

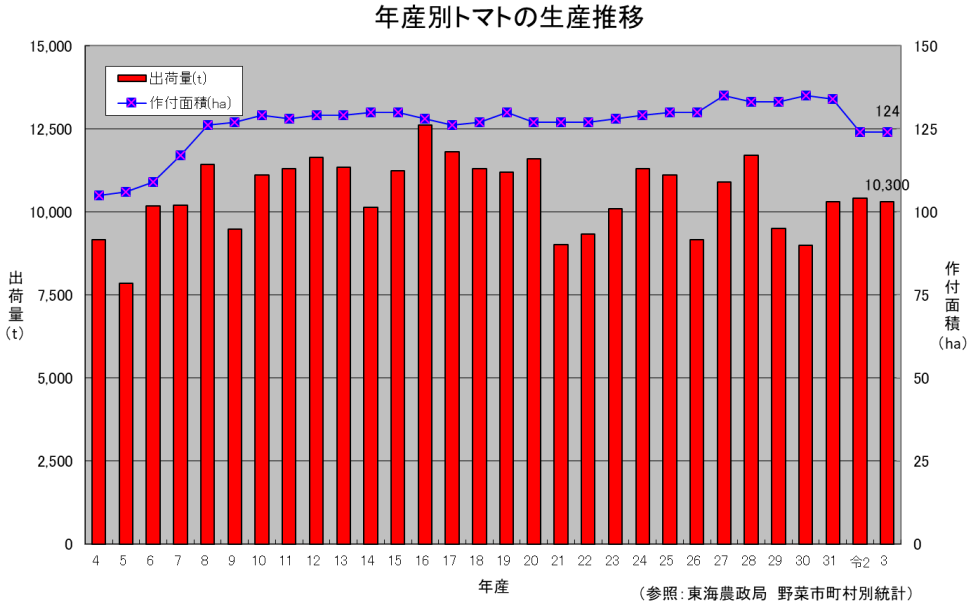
また、安全で安心なトマト栽培への取り組みとして、ビニールハウスの周囲に防虫ネットを張り農薬の散布回数を減らすとともに、有機質肥料を使用して栽培している。

平成１４年度からは化学肥料と化学合成農薬をそれぞれ従来より30%以上削減した栽培体系・ぎふクリーン農業令和６年３月31日で制度終了）を取り入れ産地として減化学肥料・減農業が根付いた。今後はより高度なGAP(農業生産工程管理)に取り組んでいく。また、共同選果場においては、出荷者ごとに毎日抜き取り１週間保存するなど安全、安心な生産に努めている。

飛騨トマトの栽培体系

飛騨トマト作型(例)

	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
普通作型	播種 ○			仮植 △						定植 □						収穫 ■														



（参照：東海農政局　野菜市町村別統計）